



過去を反省するからこそ今があり、 今を反省するから未来がある

県立高校1年 R. S.

ある日、テレビのニュースを見て

私は高校1年生です。「安全保障関連法案」に反対の意見を持ったのは、ある日、テレビのニュースを見ていると、この法案のことについて安倍首相は「この法案は、同盟国が武力を受けた時に、日本の自衛隊が協力することによって、日本の平和が守られる、そのために必要だ。また、他国との交流を深める。」と言っていました。しかし、それに対して多くの憲法学者や弁護士が、「この法案は日本が戦争できる国になる。」と反対の声を上げていました。

私は、この日本がまた70年前のような事になってしまうかも知れない、多くの人が犠牲になってしまう、そのようなことが2度と起きてはならないと思いました。そのためにはこの法案を廃案にしなくてはならないと感じ、反対の声を上げていこうと思いました。

市民集会に参加してみました

そんな時、桐生の新川公園で法案に反対する市民集会があることをチラシで知り、参加してみました。反対の意見も聞いてみたいと思いました。大人の人たちの意見を聞いて共感できました。

いま高校1年生ですが、私と同じ高校生はこの法案について、しっかり理解している人や関心を持っている人は少ないと思います。私の学校でも全く話題になっていません。もし、この法案が危ないと知ったと



き、もっと多くの高校生たちが声を上げると思っています。そのためにも私は多くの仲間にも知ってもらおうよう声を上げていきたいと思っています。

国会議員や首相に不満

法案は可決されてしまいましたが、私は今の国会議員や安倍首相に不満を抱いています。9月16日の特別委員会では、国会の外で何千、何万という人が反対の声を上げていました。しかし、委員長を議員が囲むなか、とても冷静とはいえる状況ではないなか、強行可決しました。さらに、参議院において安倍首相は多くの国民の声を無視して採決を強行しました。残念に思います。そして、なぜこの時期に採決しなければならなかったのか。本当に今やるべきことは東日本大震災の復興にもっと力を注いだり、鬼怒川の氾濫で被害にあった人たちを支援したり、いま困っている人たち、苦しんでいる人たち、泣いている人たちを笑顔にしてあげる、幸せにしてあげることが

本当の政治ではないかと思いました。

中国や北朝鮮の脅威論を振りまき、アメリカに協力することが日本を守ることになると言いますが、日本人の1億2000万人の笑顔を守っていく、笑顔をつくっていくことが大切だと思います。

過去を振り返ってはいけないと言う人がいますが、過去を反省するからこそ今があり、今を反省するから未来があると思います。戦争をした過去があったから戦争をしてはいけないという反省があり、これから戦争をしない国を続けていくことが大切だと思います。

政治とは国民に寄り添い行うこと

私はこれから大人になり、大切な人ができた時、その人のために一生懸命汗を流していきます。しかし、見知らぬ人のために

血を流すような未来にたくはありません。そのことを安倍首相はどう考えているのでしょうか。政治というのは私たち国民の声を聞き、どうしたら日本をもっと良くすることが出来るのか、国民に寄り添いながら行うことだと思います。今の政治は国民との距離が遠いと思います。政治とは国民との距離が近い関係でなくてはならないと思います。そういう社会を築いていきたいと思っています。

来年の参議院選挙では18歳の高校生も選挙ができることになりました。とても良いことだと思います。私も18歳になったら積極的に政治に関わっていきたいと思っています。そして、この戦争法を撤回させて行くために声を上げていきたいと思いました。

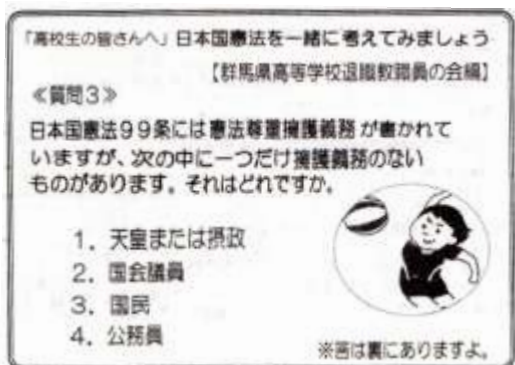


表
←
裏
→

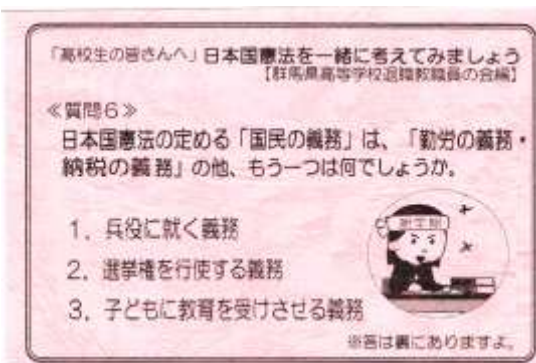
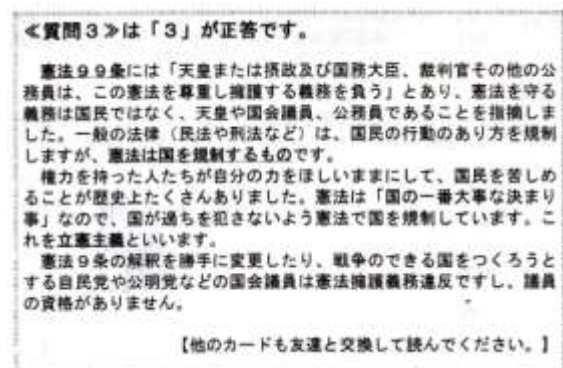
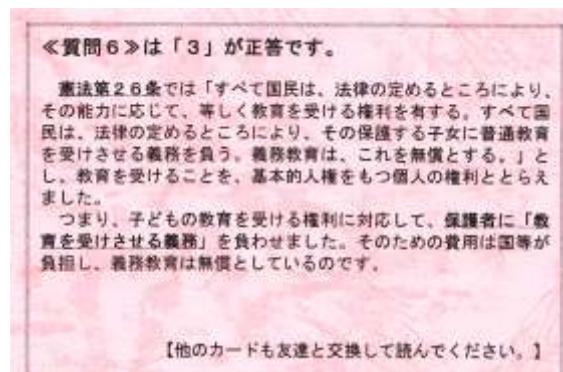


表
←
裏
→



編集担当：須田章七郎

ふとしたことで出会った高校生に、「原稿を書いてくれませんか」と頼んでみたら、「はい」と言ってくれました。平和について、政治について、安保法案について、こんなに真剣に考えている若者に出会えたことに感動しています。私が所属する群馬県高等学校退職教職員の会では、上に掲げたカードを介して高校生を対象に日本国憲法の理解を深めるための啓蒙活動を行っていますが、まさに彼のような若者にめぐり合うことが目標でしたから、とても心強く思います。S君、寄稿してくれたことに心から感謝します。